

J.P.C



打楽器あれやこれや...vol.10 岡田知之

NHK交響楽団打楽器奏者
国立音楽大学助教授
東京芸術大学講師



ペダル・ティンパニ Pedal timpani

一口にペダルティンパニといっているが、ペダルの機構が異なる3種が日本ではよく使われている。一つはアメリカのラディック社製によく見られるもので均衡作動式といわれスプリングを利用したものである。この方式は楽器が古くなり調子が悪くなったり、バランス機構の調整が良くないとペダルの停止位置が安定せず、最高音が作りたくても高音の位置でペダルがとまらず少しあともどりしたり、低音でもペダルが下りきらず少し浮き上がるようになることがある。その場合ペダルの足もとについている調整ネジとヘッドの張り具合とのバランスをとりながら調整するのであるが、ままならぬときもある。特にティンパニを担当することになっている時に時間ギリギリにとびこんだりするとヘッドがおもうように言うことをきいてくれないまま演奏をせねばならぬ場合が生じるので調律に必要な時間も予定に入れなければならない。日本のパールとヤマハのティンパニもこの機構を採用している。2つめはイギリスのプレミア社の製品に見られるクラッチ式である。プレミアティンパニはコマキ楽器が日本の総代理店となっている。このペダルは支柱の任意の位置にクラッチ装置によりカウンターフープと連結したアームを止めるようになっている。ペダルを動かす時にはつま先部分でブレーキを解き、音程を上げる場合は下方に踏み下げる。また音程を上げる場合はブレーキを解いて足の力をぬくとヘッドの張力によりペダルは自然に上に動き音程は下がるという仕掛である。このティンパニは演奏中、足をペダルにのせたままにしていると腕に力を入れた時足にも力が入りペダルを押ししてしまうことが生じるので足の置き場に注意を要する。3つめの種類はギヤーをかみ合わせでペダルを安定させる機構のものでドイツのリンガ製のものである。近年はこのモデルがアメリカでも作られている。アメリカ製はヘッドのサイズがドイツのものより異っている。このモデルはペダルの位置が高目になるので椅子を用いた方が演奏はしやすい。ペダルを動かすためには足の側面からサイドレバーをはずすのだが、レバーをはずさないで足の力が弱いとペダルを動かす時ギヤーをこすってしまい「ギーッ」と雑音を発することがあるので注意を要する。またこのティンパニは目方が重いと固定したキャストが付いていないので一人では絶対に運べない。キャストは別途付けることが出来るがいまひとつ調子がよくないようである。音程の安定性はこのモデルが一番高く値段も高い。以上3種それぞれ長短所はあるがいずれも使い慣れれば素晴らしい楽器である。

ペリンパウ Berimbau

一般にはビリンパウと呼ばれているブラジルの楽器。網代景介先生と私が共著で音楽之友社より出版している「打楽器事典」の初版が出回った頃、「ビの項にペリンパウが載っていないがペリンパウも打楽器の一種である」と読者からのご指摘があった。この本では綴りや発音を編集関係者と協議した結果「べ」の項でとり上げることにしたのであるが、なじんでいる発音で載せなかったのはまずかったかと反省をしたものであった。楽器は弓に張った弦を細い棒で軽く叩いてリズム

ムを奏するのであるが、弦につけてある響鳴用のひょうたんにヴィブラートを与えるために腹に当てたりはししたり、棒を持つ手にカシシを持って、弦を打つ音とカシシが同時に鳴るようにしたり、弓を支える手の指にコインをはさみ弦の振動に軽く当てて与韻に濁りをつけたり、と演奏方法はなかなかややこしいが、音が出るようになると、とても愉快なリズムが得られる。

ベル トゥリー Bell tree

このJPC機関紙のこの欄のvol.7にトゥリーチャイムという細い金管を沢山ぶら下げた楽器を紹介したが、ここに挙げるのは沢山の椀型のベルをたてに重ねて吊り下げた楽器で、主に中東の国より誕生している。

ベル リラ Bell Lyra

行進用携帯鉄琴。ギリシヤの堅琴リラの形をしたわくに金属の音板をはめこみ、奏者は腰のホルダーで握り棒を支え片手で楽器を維持し他方の手で演奏をする。片手での演奏なのでロール奏法や動きの早い曲は不得手である。

方 響

古く中国の隋、唐の時代(581~628年)頃より伝えられた楽器。調律された16枚の方形の鉄板を8枚ずつ2段に吊したもので、明や清の時代には雅楽に用いられたがその後使われていない。日本には奈良時代に伝えられたが、平安時代にはみられなくなった。1973年、日本雅楽会の手によってこれが復元され現存している。その頃NHK-TV番組に「世界の音楽」というのがあり小生がゲスト出演した際この復元された方響が丁度番組の中のコーナーに登場し演奏がなされた。その時は「これが方響というのか ホー！」と感じただけであったが今おもえばもっとよく見ておくべきであったと残念である。

ボックス ラトル Box Rattle

沢山の革を組んで作った箱(25×20×2.5位)の中にかわいた種子など小さい玉を入れ、振ったり指で押すように叩いてリズムを出す東アフリカの民族楽器。似たようなものは中南米の国々にも見られる。

ボナン Bonang

ジャワのガムラン音楽に用いる壺形のゴングで中央部に突起があるもの。5~7個を木枠にわたした組の上に並べ2本の撥で演奏する。

ぼべん

江戸時代後期に中国より伝来したガラスの玩具楽器、薄いガラスの球に吹き口をつけたもの。球の底はとくに薄く作られ、吹き口に息を吹いたり吸ったりすると球の中の気圧の変化により「ポッペンポッペン」という音がする。いまでも割れるのではないかとスリルがある玩具。スリルをたのしむものではない。なぜか博多の土産とされていて福岡県土産館などで売っている。ポルトガル語でガラスの意味の「びいどろ」とも呼ばれているので、長崎から博多の方面に広まったせいもあるのか。大きさや色あいも色々あり値段も大きさに応じて色々である。

Drumcity 情報



★スティーヴ・スミス

Steps Ahead in Japan

驚異的なサウンドの変遷を遂げたステップス・アヘッド。その核となったのが新たに加入したスティーヴ・スミス(元ジャーニー)だ。ジャーニー時代、彼はツープラスを使用していたが今回はワンバス、ツイン・タム、ツーフロアタム(ソナー・シグネチャー・ブピンガ仕上げ)に電子ドラムはシモンズSDS-5、ダイナコードのPercuterを使用。パークリー音楽院でジャズドラムを専攻していただけにステップスでのドラミングに彼自身、新たな意欲と喜びで満足そうであった。「よりクリエイティブに…」という彼の言葉どおりコンサートでのドラミングはまさに新生ステップスの核と呼ぶにふさわしいプレイを見せてくれた。これからの活躍を心から期待したい。

尚、来年早々、今回のコンサートのビデオテープが(株)ビデオ・アーツ・ジャパンより発売予定となっている。



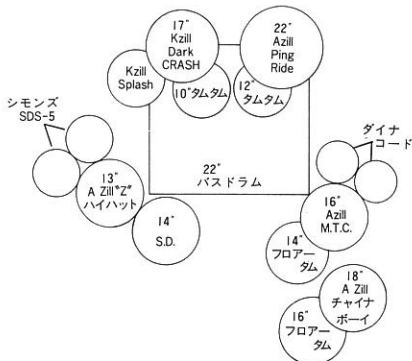
◀スティーヴ・スミス使用スティック

Vic Firth ハービーメイソンモデル
// ガッドモデル
// アメリカンクラシック5A
// スターバースト5B
プレミアワイヤーブラシ556

▶ドラムセットアップ▶

ソナーシグネチャー(ブピンガ)RH

バスドラム HLG-22(RH)
タムタム HLT-10 10"×10"
タムタム HLT-12 12"×12"
フロアタム HLFT-14 14"×16"
フロアタム HLFT-16 16"×18"
バスドラム 22"×18"

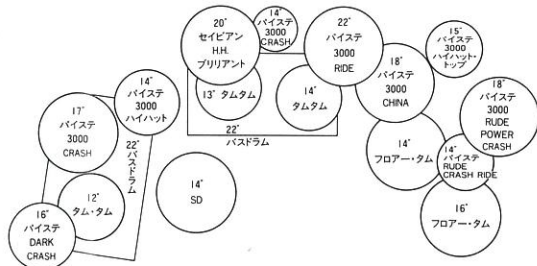


★ロナルド・シャノン・ジャクソン



SONORドラマー2人目は、ロナルド・シャノン・ジャクソン。ペーシストのビル・ラズウェルグループのセッションドラマーとして急速来日し、10月4日と5日の両日、新宿「PITINN」でコンサートを開いた。4日は山下洋輔、5日はハービー・ハンコックをゲストに深夜1時30分の開演。深夜にも関わらずPITINNは超満員。シャノン・ジャクソンの使用セットはシグネチャーシリーズでセットアップ

は次の通り。あたかもヘヴィメタルでも始めそうなセットアップに圧倒されたが、内容はフリー・ジャズ。見た通り普段は非常に素朴で暖かい人なのだが、ひと度演奏となると、自在なスティック・ワーク、鋭いタッチで存在を主張する。ハービー・ハンコックの小粋な音、途中テナーサクソフォンのピーター・ブロッツマンも登場し、湧きに湧いたセッションが終ったのは夜明け近くの午前3時だった。



第6回JPCサマーキャンプ

—Body Vibration Action 1(ichi)—

第6回JPCサマーキャンプは、7月28日から8月1日まで昨年、一昨年と同様河口湖畔にある民宿「流石」で開催された。今年は、ゲストに「円トレーニング」を独自で開発した仁科きぬ子先生（初の女性ゲスト）を迎えたり、東京芸術大学院生の渡辺加津子さんの作品を完成させたり、参加者の大半が女性だったり、少々女性上位気味。

第1日目

いつもと同じように開講式から突然レッスンに入る。まずは腹這いになって掌だけで進む地獄の匍匐前進。しかし昨年ほど長時間かけなかったので皆傷を作ることは免れた。次に手を後ろに組んで起立し、閉脚のままジャンプで前進する。お腹というより腰から先に進むように心掛ける。再び床に寝ころがり、今度は仰向けになって膝を曲げ、一定のテンポで腰を床につけたり浮かせたりする。最後は四つん這いになって一声「ワン！」と吠える。猛獣になったつもりで頭を下げ、グッとお腹を落とし肩甲骨を突き出して構え、吠えた時顔は正面へ持ち上げられ上半身は前方へ乗り出す。声を出し終ると同時に脱力して元の姿勢に戻る。一見簡単そうだが実際にはなかなかうまく出来ない。

寝ころんだり、這い回ったりするこれらの体の動きによって腰、つまり体の中心をはっきり意識することが出来るようになる。ここからパワーが体の隅々に流れて行くのだ。

中心部の次は手足の動きへ。始めに自分の膝が曲がらないうえ、足が鉛のように重いと想定して歩いてみる。満身の力を込めなければ一歩も前へ進めない。次に逆に、足を思い切り蹴り上げて出来る限り遠くへ一歩を踏み出してみる。力を一点に集中させたら、一気に発散する感じで歩くと、一歩一歩をはっきり体中で感じ取ることが出来る。手も足に合わせて思い切り振る。

体が目覚めたら言葉に意識を持たせる。全員輪になって座り「ドコダ」の回覧板。お互いに顔を見合って言葉の受け渡しをする。「ドコダ」の他にも「上ダ」「前ダ」等の言葉を加え、受けた人は言われた方向を見てから隣にまた別の言葉を渡す。言葉に慣れたら手や足の動きも加える。アンサンブルの練習になるばかりではなく、大切なコミュニケーションの基礎となり得る。

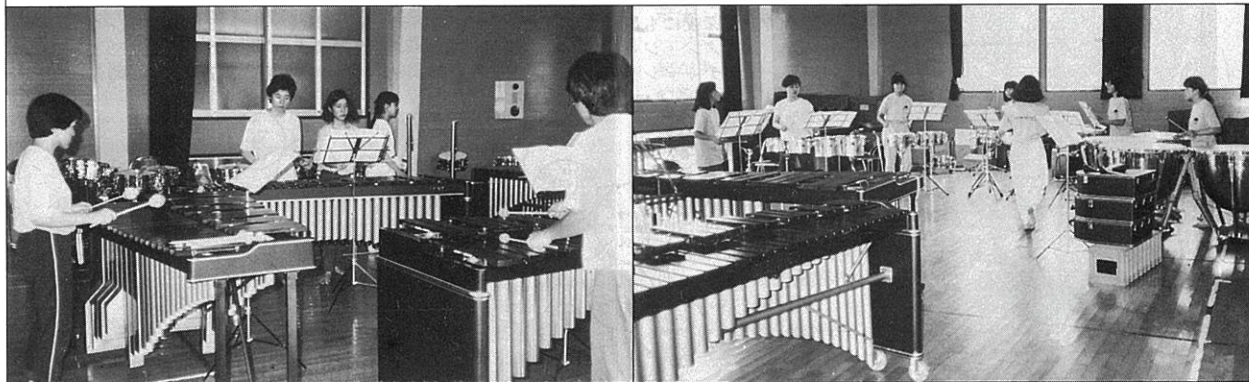
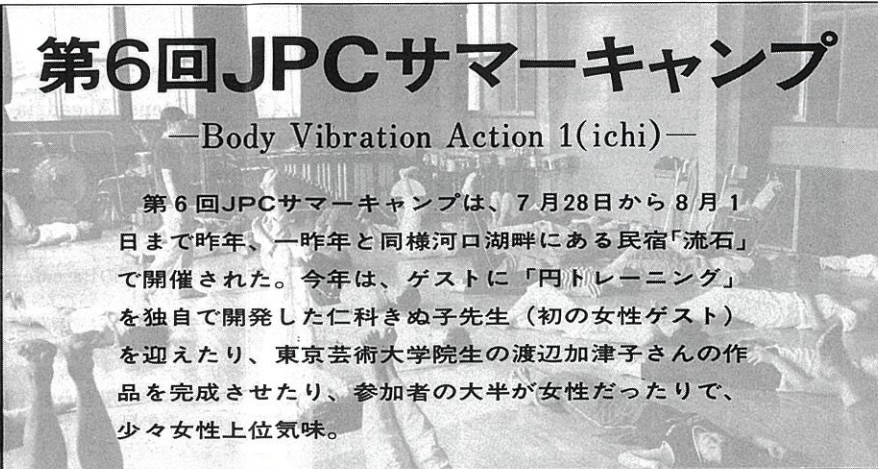
第2日目

前日の復習の後、スネアドラム類を出す。すぐには音を出さず、何と楽器でキャッチボールならぬキャッチドラムを始める。言葉の回覧板が楽器に変わったただけなのだが、楽器を投げているということ、ひとつひとつ大ききや重さが違うことなどで皆の動きが丁寧になる。投げ合うテンポが早くなると、大声で騒ぎはするが、丁寧さに変りはない。勿論誰も一度も落とさなかった。

スティックを持ってスネアドラムを叩く。腕を高い位置から脱力して落とし素早く引き上げる。両手或いは交互に叩き、テンポも少し速くしてみる。この時に中心は腰にあることを忘れないようにする。ランダムに叩いてみると全員、大分上半身が脱力していて音にも活気があるのがわかる。

第3日目

午前中渡辺加津子さんの曲の練習を始める。「さいしょの夜明け」という題のこの曲は、太古の時代、全く何も無い大地





からいろいろな自然が少しずつ生まれていく様子を書いたもので、ティンパニ、鍵盤楽器、小物打楽器の他に、唄や朗読、リコーダーのパートもある。楽譜を渡されてすぐ初見でアンサンブルを始める。文字通り譜面にかじりついて何とか最後まで辿り着く。

午後、ゲストの仁科きぬ子先生を迎える。年齢不詳の仁科先生は、自分自身の向上のため、ハンディキャップを克服するために様々な努力を重ねて「円トレーニング」というものを考案した方である。

「円トレーニング」とは、「胎児の呼吸法」を基本として人間の体のあちこちで円を描いて隠れた才能を引き出して行くもので、幾つものカリキュラムをこなすことによって健康増進になるばかりでなく、精神を高める訓練にもなるそうだ。

今回のキャンプでは、幾つかのトレーニング方法を教えてくださったのだが、全てに一貫してユニークだったのは、息を吐く時に必ず声も出すことである。平常の声ではなく、溜息した時に思わず出るあのだらしの無い声だ。不思議なことに吐息と共に声を出すより多くの息を吐く事が出来、体の力も脱けて気分が良い。ストレス解消の良い方法になりそうだ。

第4日目

午前中は、仁科先生のリトミックで始まる。まるでスパニッシュ・ダンスのレッスンのようだ。声を出しながら体育館の中を歩きまわっていると、目に見えないエネルギーが少し

ずつ湧いて来て、大きな渦を作り出しているような気分になる。

高揚した気持ちのまま、午後は再び「さいしょの夜明け」の練習に入り、他のアンサンブル曲にも手をつける。時間が無いと焦りながらも夕方には河口湖へ出掛け、夜はバーベキューでお腹を満たし、夜遅くまで楽器を叩いて遊んでいた。

第5日目

恒例のミニ・コンサートというより今回は発表会におさまった。練習量が足りていなかったことと、解散の時間が迫っていた事が重なって、どの曲も少々消化不良気味。しかし最後に演奏した「さいしょの夜明け」は全く違った。最年少で中学2年生の女の子も、太鼓を演奏した事のない男性も皆がひとつの曲に向けてそれを完成させようとする気持ちは同じである。昨日のエネルギーが、どこからともなく湧き出てきた様で、演奏者ばかりかスタッフまでも言い知れぬ感動を覚えた。

キャンプ後半から少しずつ広がって、「さいしょの夜明け」の最後の音が消え去る時に頂点に登りつめた感動をいつまでも忘れないで欲しい。

——今回使用したアンサンブル——

- A TIME FOR JAZZ(8人)
- CIRCUS(5人)
- AFRICAN WELCOME PIECE(6人)
- AVE MARIA(3人…マリンバ三重奏)
- 楽興の時(4人…マリンバ四重奏)
- さいしょの夜明け(全員)

上野信一打楽器リサイタル

PÉCITAL DE PERCUSSION Par Shiniti UËNO

1986/11/8(土) 7:00pm.

草月ホール

全自由席 ¥3,000

曲目

- | | |
|-------------------------|------------|
| Quatre Inventions(1974) | M.CALS |
| 4つのインベンション | M.カルス |
| Convergence I(1975) | Y.TAIRA |
| コンヴェルジャンス I | 平 義久 |
| TAY-SON(1984) | N.T.DAO |
| タイ・ソン(日本初演) | N.T.ダオ |
| Thirteen Drums(1985) | MAKI ISHII |
| サーティーン・ドラムズ | 石井真木 |

"MEEACAT"

東京パーカッショングループ



若いミュージシャンの集団、「東京パーカッショングループ『ミーアキャット』」のファーストコンサートが11月28日、有楽町の朝日ホールで開かれる。日本中のあちこちでパーカッションの人気が高まっている今日この頃、「僕達は打楽器の魅力と可能性を追求し、独自のカラーを持ったグループだ！」と宣言したこのグループを早速取材。

2年前、渡部新一郎氏をリーダーとして結成されて以来「ハッピーな演奏が出来るグループ」を目指し続けている。「ハッピー」というと、それだけで何となく恰好良いだけで結局は何の意味もない事が多い。そこで少し掘り下げて「ハッピー」の意味を質問してみた。

「もちろん、楽しいって事なんですけれど、聴いている人達に本当に楽しんでもらうためには、演奏しているメンバー同志も楽しくなくちゃならないと思うんです。つまらないと思いつつながら底抜けに明るい曲を演奏すれば、聴く側にも気持ちがあつて、あれ？何か変だなんてことになります。これじゃ、いくら上手くてもプロとは言えないんじゃないかな。

でも、和気合々とやってるからいいってものでもありませんよ。楽しいだけで中味の無いのもプロじゃないですよ。楽譜に書かれていることを真剣に分析して理解しなくちゃ。そのうえで、楽しく演奏するのがプロ。僕達が目指しているものです。」と渡部氏をはじめ、メンバーは顔を輝かせて話してくれた。

この2年間、多忙なメンバー達の時間調整をしなから、依頼されたスクール・コンサートで日本中を廻る傍ら、個人の音楽を追求するために入念にリハーサルを行って来た。メンバーは、渡部新一郎氏(国立音大卒、元岡田打楽器合奏団メンバー、現在東京パーカッショングループ「ミーアキャット」リ

ーダー)、白石啓太(国立音大卒、元岡田打楽器合奏団メンバー、現在猪俣猛とエクスプレス、スタジオM、マニユビレーター、作曲家、アレンジャーとして活躍)、大野智雄(国立音大卒、元岡田打楽器合奏団メンバー、昭和53年度コンセル・アマコンクール優勝、現在マレットキーボードプレイヤーとして活躍)、西尾純之介(東京音大音楽科中退、毎日コンクール声楽部門入選、OPA、コンボ・トウシュー・FIGAのパーカッショニストを経て現在少年隊、ニューミュージックのバックバンドでパーカッション&キーボードプレイヤーとして活躍)、蓮尾小枝子(国立音大卒、桐朋ティプロマコース中退、現在マリンバトリオ主宰、アレンジャー、主婦)、新津功蔵(東京音大卒、コンボ・トウシューを経て現在フリー・ドラマーとして活躍)、中村祐子(国立音大卒、第2回打楽器協会主催「打楽器新人演奏会」特別賞受賞)、以上7名の他に東京都交響楽団の山崎秀樹氏が賛助出演している。

平均年齢27才の若くはないが年配でもない彼らのコンサートのメインは、日本で初お目見えといえるであろう、スチール・ドラム・バンドである。今までのオーソドックスなパーカッションアンサンブルの領域を大きく広げるといえるようなスチール・ドラム・バンドをレパートリーとすることは渡部氏の子でからの希望であった。編成は、ピンポン(ソロリード)、ダブルリードパン、セカンドパン、セロパン、ベースパンそしてパーカッション。日本初お目見えだから楽譜を探すのも一苦労。結局、現在トップ・アレンジャーの前田憲男氏に依頼して曲を完成させることになった。

コンサートに向けて仕上げに余念のない「ミーアキャット」の今後の活躍に期待したい。

TOKYO PERCUSSION GROUP

"MEEATCAT"

— FIRST CONCERT —

1986年11月28日(金)

朝日ホール(有楽町マリオン11F)

開演 6:45pm

全自由席 ¥3,000

演奏曲目

PART1: 「鼓」水野修孝/
「マートラ」西村 朗(日本初演)/
「Miracle FruitII」白石啓太(初演)

PART2: Steel Drum Sound
「エリカ」編曲蓮尾小枝子/「湖のマンボ」
編曲三浦真理/「ラブソディー・イン・ブ
ルー」編曲前田憲男他

お問い合わせ ジャパン・パーカッション・センタ
ー ☎03-845-3041/楳音楽事務所サウンド・ギャ
ラリー ☎03-845-4041

Vic Firth, Ludwig 製品価格改訂のお知らせ

ソナー、プレミア、ジルジャン、セイビアン等に続きヴィック・ファース、ラディック、マッサーも遂に値下げの運びとなりました。チャンスは今です!

■ヴィック・ファース■

●スネア・ドラムスティック

アメリカン・カスタムシリーズ

SD 1	ジェネラル	1,500円
SD 2	ボレロ	1,500円
SD 3	サンダーロック	1,500円
SD 4	コンボ	1,500円
SD 5	エコー	1,500円
SD 6	シズル・B	3,000円
SD 7	ホワッカー	1,500円
SD 8	チョッパー	1,500円
SD 9	ドライバー	1,500円
SD10	スウィングー	1,500円
SD11	スラマー	1,500円
SD12	シズル・G	3,000円

アメリカン・クラシックシリーズ

2 B	1,500円
2 B-N	1,500円
3 A	1,500円
3 A-N	1,500円
5 A	1,500円
5 B	1,500円
5B-N	1,500円
7 A	1,500円
7A-N	1,500円
JAZZ 8 D	1,500円
JAZZ 8 D-N	1,500円
ROCK	1,500円
ROCK-N	1,500円
ROCK CRUSHER	1,500円
ROCK CRUSHER-N	1,500円
GADDMODEL	2,200円
MAYSONMODEL	2,200円
3 S	1,500円

●ティンパニ・マレット

T 1	ジェネラル	4,800円
T 2	カートホイール	4,800円
T 3	スタックカート	4,800円
T 4	ウルトラ・スタックカート	4,400円
T 5	ウッド	3,000円
T 6	カスタム	5,200円

●キーボード・マレット

M 1	S	毛糸巻	4,900円
M 2	M	//	4,900円
M 3	MH	//	4,900円
M 4	SS	//	4,900円
M 5	MH	ラバー	3,200円
M 6	H	フェノール樹脂	3,200円
M 7	H	//	3,200円
M 8	H	//	3,200円
M 9	H	糸巻	4,900円
M10	VH	//	4,900円

■ラディック・マッサー(一部ご紹介致します)■

●ティンパニ

プロフェッショナルモデル

No.835	20"	474,000円
No.879	23"	499,000円
No.814	26"	526,000円
No.815	29"	578,000円
No.878	32"	604,000円

スタンダードモデル

No.836	20"	379,000円
No.886	23"	398,000円
No.795	26"	416,000円
No.797	29"	476,000円
No.889	32"	509,000円

※全て銅製ケトル、チューニングゲージ付

●コンサートバスドラム

No.804	16"×32"	165,000円
No.806	16"×36"	175,000円
No.808	18"×40"	240,000円

●スネアドラム

スーパー・センシティブ		
No.410	5"×14"	109,000円

No.411	6 $\frac{1}{2}$ "×14"	116,000円
スーブラ・フォニック		
No.400	5"×14"	70,000円
No.404	6 $\frac{1}{2}$ "×14"	75,000円

●ヴィブラフォン

M-75	センチュリー	1,253,000円
M-55	プロ	1,079,000円

●マリimba

M-250	4 $\frac{3}{4}$ オクターヴ	1,391,000円
-------	-----------------------	------------

●シロフォン

M-51	3 $\frac{1}{2}$ オクターヴ(F ₄ -C ₆)	468,000円
------	--	----------

●グロッケン

M-646	2 $\frac{1}{2}$ オクターヴ、ハンドダンパー付	288,000円
M-645	2 $\frac{1}{2}$ オクターヴ、ハンドダンパーなし	219,000円

●スモールパーカッション

トライアングル

No.1333	6"	6,400円
No.1433	6"(グリッサンド)	7,400円
No.1334	8"	7,400円
No.1434	8"(グリッサンド)	9,300円
No.1332	10"	8,800円
No.1435	10"(グリッサンド)	10,800円

ウッド・ブロック

No.774	ラージ	3,700円
No.775	スモール	3,500円

スレイ・ベル

No.97		7,800円
-------	--	--------

カスターネット

No.89	木台付	7,800円
No.90	ハンド・カスターネット	3,000円
No.91	シングル・ペア	3,000円

ラチェット

No.75		6,500円
-------	--	--------

その他スティック、マレット、ヘッドも大幅に値下げされております。詳細は、ドラムシティ又は、ジャパン・パーカッション・センターまでお問い合わせください。

岡田知之打楽器合奏団 特別演奏会のお知らせ

「ミラクルパーカッション コンサート」

演奏 岡田知之打楽器合奏団

岡田知之 児玉慶三 細谷一郎 橋 政愛 近藤郁夫
新沢義美 新谷祥子 幸西秀彦 成田素子 及川真由美
ほか……

主催 青山円形劇場 こどもの城

このコンサートは青山円形劇場オープン一周年を機に開催されるもので、円形のステージを用いて音と光のパフォーマンスを展開します。プログラムは[A][B][C]の3種が用意されます。

[A] 打楽器で綴る日本の12ヶ月「響の四季」

作曲 菅野由弘

240個の打楽器を用いて季節の移り変りをあらわした大作です。すきとおるような夜空に光る星の輝き、春とともに動きだす虫の音、蛙の合唱、流水が押し寄せる様子など……の音をナレーションとともにお贈りします。ナレーターはオペラ歌手の築地文夫です。この曲は日本コロムビアより、CDを発売中ですが立体感あふれる生演奏をご期待下さい。

[B] ドラミング 作曲 スティープ・ライヒ

昨年12月岡田知之打楽器合奏団は西武美術館主催のミュージックミュージアムにおいて日本人演奏家による「ドラミング」初演を行いセンセーションをおこしました。しかしこの時はアフリカのカクラパロビとのジョイントコンサートのためドラミングは50分間の演奏でしたが、今回は最長指定時間の1時間30分を予定しています。これまでライヒのパーカッショングループのレコードしか聞くことが出来なかったこの曲に岡田知之打楽器合奏団

は昨年より取り組みレパトリーとしました。リズムの根源を見事にとらえた大曲のステージ演奏をお楽しみ下さい。

[C] おもしろ打楽器コンサート

子供も大人も楽しめる打楽器アンサンブルの小品を集めたコンサートです。打楽器の誕生を音で知る「打楽器物語」や「時計の音楽」日本のリズムやメロディー・ボビュラーなフェュージョニズムなど小さい子供達も楽しめる企画です。おさせい合せの上ご来場下さい。

演奏会日時

1986年12月	9日(火)	6:30	A「響の四季」
	10日(水)	6:30	
	11日(木)	6:30	B「ドラミング」
	12日(金)	6:30	
	13日(土)	6:30	C「おもしろ打楽器コンサート」
	14日(日)	1:00	
		4:00	

¥2,500 <自由席定員制>

会場 青山円形劇場

渋谷区神宮前(青山学院前)
地下鉄表参道B2出口歩8分

チケットは	こどもの城	03-797-5678
	チケットぴあ	03-237-9999
	チケットセゾン	03-980-6666
	岡田知之打楽器合奏団	03-425-0840
	にて発売中	

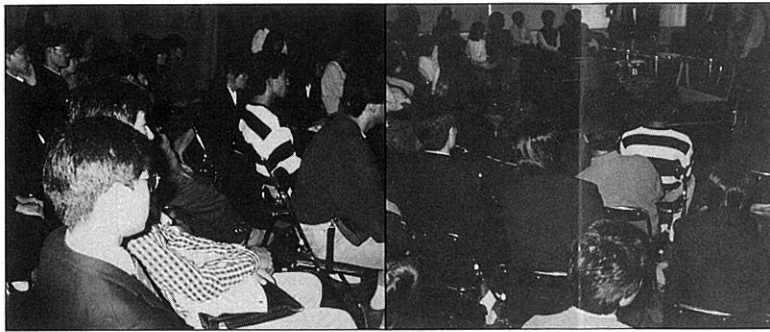
＝ペーター・サドロ＝

10月15日プレイス24 パーカッション・クリニック＝

チェルビダック率いるミュンヘン・フィルハーモニーの首席ティンパニスト、ペーター・サドロ氏のクリニックが10月15日行われた。

サドロ氏は当年として24歳。因みに第2ティンパニストは21歳。2人共エキストラなどではない。歴とした正団員である。ミュンヘン・フィルでは最近新旧の入れ替りがあって、彼らのように若い団員は他のパートにもいるようだ。才能有る若い演奏家が地面で轟き合っている日本とは違ってドイツは恵まれているとつくづく感じた。勿論彼らにも相当な試練があったに違いないが。

クリニックは、マリンバ、ヴィブラフォン、スネアドラム、



ティンパニと多方面に渡り、才能の豊さを感じさせた。「ひとつひとつの音の響きを大切にする」という彼の演奏は、どれをとっても非常に音楽性が豊かで、音に「意志」があった。

クリニックの後で「僕はミュンヘン・フィルにずっと居るつもりはない。あと5年もしたら、先生になりたい。」とあっさり言っていた彼は、ドイツの新人類とでもいうのだろうか。

※サドロ氏のクリニック決定があまりにも急で、お知らせが日本全国に行き渡らなかつたことをお詫びいたします。

◀JPCだより▶

●昭和61年分会費未納の方は、お早目に同封の振込用紙にてお振込みください。10月20日現在の集計ですので、行き違ひお振り込みの場合はご容赦ください。

●恒例決算バーゲンセールのお知らせ

毎年1月中旬から下旬にかけての恒例決算バーゲンセールを、今回は、昭和62年1月~~2~~³日より開催いたします。乞ご期待！

●コマキ楽器休業のお知らせ

12月31日、昭和62年1月1日、2日、コマキ楽器は休業させていただきます。

紙 表 スティーヴ・スミス (ステップス・アヘッド)

昭和61年11月1日発行
発行所 J・P・C事務所
〒一一一 東京都台東区西浅草一七七一
(コマキビル2F)
電話 〇三三八四五—三〇四一(代)
郵便振替口座 東京九一五三二一五
加入者(株)コマキ楽器

季節も良いので今回は世を果無んでみようと思ひます。
エ、最近の流行語に「新人類」という言葉があります。何やら訳がわかりませんが、今春社会人になった年齢以降の方々を指すらしい。平たく言つてしまえば、彼らの先輩に当たる人間達には全く解せない思考及び行動をとる人間達。ではないかなと私は考えております。
新人類と呼んで良いかどうか、この頃は無表情な人間が増えてきているように感じます。そして、先行きが不安になる無意志の人。無表情の人を見ると、「ヒッパイトロカ」という気がいたします。が、次の瞬間、「この表情のまま、グッサリ刺されて殺されるな。」と思つて前言撤回をします。意志の無い人を見ると可哀想になります。そして悲しむべき事に、最近JPCへ買入物に來るお客様にこの手の無意志人間が増えてきているという事実があります。カウンターの前に立つて、一体何が欲しいのか、何を知らたいのか、が全く言えない人が沢山います。小さな子供だったら「なに？何が欲しいの？アレ？コレ？」と聞きながら話を進めるけれど、大の高校生や大学生に向つてまさか「なに？アレ？コレ？」とは言えんでしょう。彼らにだつてアライドつてエもんがあると思つてから、ま、ここだけの話ですけれど、この類の人間が來ると「子供は別、アッタマに來るんですよ私。」と思ひつつ「ニッコリ笑うこの辛さ。」でも、彼らを買めてはいけません。程が良い。けれど、今の学校の姿を作つてしまつたのは、何のこゝろではないかと思つておられる方、育て方を知らない親達はいけません。「愛情」という言葉を取り違えて。大切に育てた結果が、こうです。可哀想な子供達。親達も可哀想ですが、大人だから可哀想がつかやイケナイ。誰かが言つておりました、「いつでも子供の気持ちに還る事が出来る人は大人。いつでも子供の気持ちが抜けない人は大人になり切れぬ可哀想な大人たち。」